

## I 目的

高等学校において、短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」(以下、短時間プログラム)を組織的・継続的に取り組むことが、児童生徒の人間関係をつくる力を育成するために有効かを検証する。また、組織的・継続的に実施する上での効果的な取組や課題を明確にする。

## II 成果

- 研究協力校の短時間プログラムの取組状況から、エクササイズの種類固定、実施日の確保等の工夫が、継続した取組になることが分かった。
- 「hyper-QU・WEBQUの結果分析」と「生徒と教職員の意識変化アンケートの結果分析」から、短時間プログラム実施前後で生徒同士の関係性だけでなく、学習場面や生徒と教職員との関係性等にも良い変容を認めることができた。
- 「生徒と教職員の意識変化アンケートの結果分析」から、短時間プログラムを継続して実施しても、マンネリや飽きを感じずに、生徒は一貫して好意的に受け止め、取り組んでいたことが分かった。

## III 課題

高校において、短時間プログラムを組織的・継続的に取り組むことが、生徒の幅広い人間関係をつくる力や対話的で深い学びを達成するための基礎的な学習態度等を育成することに有効であることがわかったが、それを続けていくためには以下の留意点が必要であることが考えられた。

### 教職員の意識向上

教職員が、短時間プログラムを生徒が自分の思いや考えを無理なく、安心感を持って、言語化する練習ができる学習場面であると捉え、意識して取り組むことで、短時間プログラムの有用性を学校全体で感じているようにしていく必要がある。

### 生徒が安心して、継続的に取り組めるための実施計画

実施日を隔週で固定や実施できなかった場合は日を改めること、実施内容について、3~4種類のエクササイズに固定し、学期毎にローテーションを組んですること等の工夫が教職員の負担軽減につながる。さらに、同じ内容で繰り返し実施することが、人間関係づくりが苦手な生徒の安心感につながり、どんな生徒も継続的に取り組めるプログラムになっていくと思われる。

